第 54 回 全日本産業別柔道大会結果報告

医療接骨チーム ブロックリーグ２位
惜しくも決勝進出成らず！！

第 54 回全日本産業別柔道大会が、平成 18 年 11 月 23 日（木・祝）午前９時 30 分講道館大道場にて開催されました。

本大会は、全日本実業柔道連盟が主催、東日本実業柔道連盟が主管し、後援に（財）全日本柔道連盟・(財) 講道館・朝日新聞社で行われ、今年で 54 年目を迎えた歴史ある大会であります。全日本柔道連盟の重鎮はもちろん、各業界でご活躍の方々には、本大会の出場経験者も多くおられます。我々、医療・接骨部門 28 名の選手団は、柔道整復業界の認知度を高めるために優勝目指して参加しました。

昨年までの大会は、各業界より参加の 10 チームを前年度の成績から１部・２部に分け、各部ごとの優勝を競っておりましたが、今年からルールが変更になり、10 チームを大会役員立会いの厳正なる抽選会において、Ａブロック・Ｂブロックの２ブロックに分けて総当り４試合のリーグ戦を行い、各ブロックの１位による決勝戦にて優勝を決定する方法に改められました。

医療・接骨チームの初戦は、昨年３対７にて惨敗した警備部門との対戦でした。ブロック内では一番の強豪チームで、警備部門に勝利すれば決勝進出が見えてくる対戦です。

試合開始、先鋒・松岡が終始優位に攻め続け優勢勝ちの好スタートを切るも、続く次鋒が大外刈で一本負け、三鋒・城寳が技有・寝技にて一本勝ちと、その後も取りつ取られつつの接戦で、あと２人を残すところで４対３と医療・接骨チームが１勝をリードして副将戦を迎えました。相手選手の積極的な攻めが勝り優勢勝ちを取られ４対４になりますが、内容差で我々チームが勝っており、大将戦が勝敗を決する試合となりました。両者ともよく戦いましたが、最後にこちらが指導を取られてしまい４対５の惜敗。本当に残念な試合でした。続く鉄鋼部門との対戦では、８対４にて勝利。３戦目の官公庁部門との対戦は、９対１と圧倒的な強さで勝利し、４戦目のＪＲ部門との試合に臨みました。先鋒・松岡の内股にて、まず１勝。四鋒・松村が技有をとり２勝目。五鋒・岡本の優勢勝ち、六鋒・城寳、続く吉田・湊谷・岩下と大将の名倉まで連続一本勝ちと鮮やかな 10 対０の勝利でした。

本当に残念ながら、我々チームと１ポイント差で４戦全勝の警備部門が決勝進出となりましたが、医療・接骨部門はブロックリーグ２位と健闘したと思います。

我々は来年の雪辱を期して会場をあとにしました。

（社）日本柔道整復師会総務部員・竹藤 敏夫